

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
					○	

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課、保育課、青少年課、市民文化スポーツ局市民センター室
連絡先	582-2410、582-2412、582-2392、582-2991

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	AED設置事業
-----	---------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	安全で安心な施設環境を整備するため、児童福祉施設や公立保育所、青少年施設、市民センターにAED(自動体外式除細動器)を設置し、正しい利用方法の周知に努めます。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	AEDの設置	利用方法についての研修 定期的な機能チェックの実施						
		これまでの進捗状況・今後の予定								
			児童福祉施設(56箇所) 公立保育所(33箇所) 青少年施設(5箇所) 市民センター(131館)	利用方法についての研修 定期的な機能チェックの実施 市民センター新設館への設置						
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		AEDの設置施設(児童福祉施設、公立保育所、青少年施設、市民センター)				計画	施設	-	年度	
		安全で安心な施設環境を整備するためAEDを設置				実績	225 施設		内容	
						達成度	%	%		
						計画			年度	
実績								内容		
達成度		%	%							
コスト						事業費	24,743 千円	千円		
	うち一般財源					2,520 千円	千円			

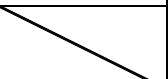
【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	児童福祉施設(児童館、母子生活支援施設、児童養護施設、放課後児童クラブ等)、公立保育所、青少年施設(足立青少年の家、旗キャンプセンター、矢筈山キャンプ場、堀越キャンプ場、帆柱キャンプ場)、市民センター全館へ設置しました。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	施設利用の安全性の観点、安全安心なまちづくりの推進からも有効性は高い
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	他の部局と共同で一般競争入札を行なうなど、経済的・効率的に購入を行いました。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	安全対策のため、早期の対応が必要です。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		4	施設利用者等の安全のため、AEDの設置は、市の責務であり市の関与をなくすことはできません。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後も、安全で安心な施設環境の整備に努め、定期的な機能チェックや利用方法の研修等が必要です。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	今後は、利用方法の研修や、定期的な機能チェックを実施していきます。 また、新たに開設される市民センターについても逐次設置します。	前年度に評価した今後の方向性 
---------------------	---	---

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
				○		

担当局/課	市民文化スポーツ局 安全・安心課
連絡先	582-2866

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	モラル・マナーアップの推進
-----	---------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市内における迷惑行為、特に「路上喫煙」「ごみのポイ捨て」「飼い犬のふんの放置」「落書き」の4つについて、その発生を防止し快適な生活環境の確保を図ります。このため、人が多く集まる中心市街地など特に周囲の人々に影響を及ぼす地域を「迷惑行為防止重点地区」に指定し、同地区内において前記4つの迷惑行為を行った者に対して過料の適用を行い、市民のモラル・マナーの向上を図ります。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由			
		当初の予定	重点地区指定 新規1地区 (計 2地区)	重点地区 2地区継続							
			広域にわたる啓発・広報活動の実施								
		12回	12回	12回	12回	12回					
		これまでの進捗状況・今後の予定	重点地区指定 新規1地区 (計 2地区)	重点地区 2地区継続							
			広域にわたる啓発・広報活動の実施								
	60回	12回	12回	12回	12回						
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標		
		迷惑行為防止重点地区の指定					計画	1 地区	- 地区	年度	
		迷惑行為の発生を防止するためには、モラル・マナーアップ関連条例の周知を行うとともに、条例の実効性を確保するため、迷惑行為防止重点地区を指定して巡回・過料適用に取り組むことが必要であり、この指定地区数を指標とします。					実績	1 地区	内容		
達成度							100 %	%			
迷惑行為防止重点地区における取組みに関する広域にわたる啓発・広報活動の実施					計画	12 回	12 回	年度			
迷惑行為の発生を防止するためには、重点地区における巡回・過料適用とともに、市民等に向けての広報活動が必要である。このため、より多く目にもらえるよう、街頭における広報活動や市政広報物を利用した広報、新聞・テレビ・ラジオなどのメディアを通じた広報など、より周知効果の高い媒体を利用した広報活動に取り組むます。					実績	60 回	内容				
					達成度	500.0 %			%		
コスト							事業費	102,373 千円	48,775 千円		
	うち一般財源						101,222 千円	41,391 千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	小倉の重点地区における巡視活動を継続して実施するとともに、黒崎地区を新たに重点地区に指定して取り組みの拠点を増やし、迷惑行為のない環境づくりが更に進みました。また、重点地区の追加指定や黒崎地区の過料の徴収開始に伴い、様々な媒体を用いて取り組みの広報を行うことができました。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	重点地区の追加、拡大や広報活動の充実に取り組んだ結果、重点地区内における迷惑行為、特に路上喫煙者は大幅に減少し、市民のモラル・マナーの向上に高い効果が見られました。
	経済性・効率性		4	条例違反者への指導・過料の徴収については、違反者の反発等が予想されるため、その対応の難しさや警察との連携を要することから、警察OBを雇用しています。雇用人数については、最小限に抑え、ローテーションして巡回を行っています。広報経費については、今後の周知の状況に応じてその手法と経費の額を見直していく必要があると考えます。
	適時性		4	施策実現のため、重点地区における巡回指導・過料徴収及び広報活動を継続して実施することが不可欠です。
	市の関与の必要性		4	市以外の実施主体は考えられません。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	本事業は施策に対する有効性が高く、継続実施すべき事業であると考えます。H23年度は、「北九州市迷惑行為防止基本計画」に基づき、重点地区の巡回指導・過料徴収の取り組みを継続実施するとともに、市民や市来訪者への周知効果の高い広報活動に取り組む必要があると考えています。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	さらに市民の認知度が上がり、モラル・マナーが向上するよう、より効果的な広報活動に取り組みます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
			○			

担当局/課	消防局・救急課
連絡先	582-3820

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	「スクール救命士」事業
-----	-------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	思わぬ病気や怪我に冷静に対応できるよう、小中学生の年齢層に応じたカリキュラムを策定し、救命講習を実施することにより「安全・安心」に対する意識向上を図るとともに、子どもたちが成人するまでに必要な知識・技術を身につけられるよう事業を推進します。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	中学生(70%)	中学生(100%)	小中学生(100%)	継続実施	継続実施	授業内容の決定にあたり各学校長が裁量的に判断するため、進捗が当初予定より遅れています。		
		これまでの進捗状況・今後の予定	中学生(44%)	中学生(60%)	中学生(80%) 小学生(50%)	中学生(90%) 小学生(80%)	中学生(100%) 小学生(100%)			
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		小中学校実施率				計画	70%	60%	年度	H26年度
		全校実施を目標としており、その実施率を評価するものとします。				実績	44%		内容	全小中学校で実施
						達成度	62.9%			
						計画			年度	
						実績			内容	
					達成度	%	%			
コスト					事業費	703 千円	434 千円			
					うち一般財源	703 千円	434 千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	授業内容の決定は各学校長裁量のため、各学校に対して個別に事業の促進を行ったが、効率的な周知ができず、予定を下回る実施率となりました。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	「いのち」について学ぶ機会となり、技術や知識と合わせ心を教えています。
	経済性・効率性		4	対象人員が多いが、短時間、少人数で対応しています。
	適時性		4	全ての小中学生に講習を実施することを目標としているため、早期の実施が望ましいです。
	市の関与の必要性		4	応急手当普及啓発活動は市が行うこととされており、その一環での開催としています。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	各学校へ実施の促進をします。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	未実施の学校に対し、個別に更なる事業促進を行い、実施した学校長等からも他の学校に対して、本事業の広報を依頼します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	市民文化スポーツ局 安全・安心課
連絡先	582-2911

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	生活安全パトロール隊の支援(地域防犯対策事業)
-----	-------------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域の自主防犯組織「生活安全パトロール隊」の活動の活発化・レベルアップのため、区に配置している活動支援指導員による指導や助言、パトロール活動への同行、パトロールに必要な物品の補助を実施しています。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容【手段】	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	全小学校区で防犯活動を実施							
		これまでの進捗状況・今後の予定	全小学校区で防犯活動を実施							
	実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		生活安全パトロール隊による年間パトロール実施校区数				計画	131 校区	131 校区	年度	平成26年度
		安全で安心なまちを実現するためには、市民による自主防犯活動の取り組みが必要です。地域の自主防犯組織「生活安全パトロール隊」による防犯パトロール、登下校時の子どもの見守り活動などの実施が犯罪や交通事故の発生を抑止します。なお、生活安全パトロール隊は全校区（131校区）で結成され、市はパトロール隊に対して月2回以上の自主防犯活動を実施するよう依頼しています。				実績	131 校区		内容	131校区 月2回（1校区）以上
						達成度	100 %	%		
			計画			年度				
			実績			内容				
	達成度	%	%							
コスト					事業費	35,737 千円	40,023 千円			
					うち一般財源	35,632 千円	39,853 千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	町内の防犯パトロールや子どもの登下校時の見守りを毎日(平日)実施する地域もあり、市が計画する活動回数を大きく上回るパトロールが実施されました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性	この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	生活安全パトロール隊の活動を促進させるためには、行政による継続的な支援が不可欠です。活動支援指導員による防犯パトロールへの指導や助言、帽子や腕章、青色回転灯などパトロールに必要な物品を支援することで、地域の防犯活動が定着化し、パトロールの内容、回数ともに充実してきています。
	経済性・効率性	同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	生活安全パトロール隊の活動は全てボランティアによるもので、この事業では活動に対する人的支援(囑託の指導員)と物的支援(腕章、帽子など)を実施しています。毎年、事業費の大部分を占める指導員の人件費や支援物品の品目を見直しており、効果的で必要性の高い支援に限定しています。
	適時性	今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	現在行っている支援を休止・廃止した場合、地域の防犯活動は次第に低下し、活動が停止する地域が出てくることも考えられるため、継続した取り組みが不可欠です。
	市の関与の必要性	実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	3	指導員による人的支援、必要な物品の支援など、パトロール活動を多方面から効果的に支援ができるのは行政であり、実施主体は市が適当と考えられます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア：事業の見直しを図ることが可能 イ：休止・廃止を検討 ウ：現状のまま進めることが適当 エ：終了	ア	今後も、パトロールをはじめとした地域住民の防犯活動を充実したものにするために、人的・物的支援の内容を随時検討し、効果的な支援を進めていきます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	防犯活動を促進し充実したものにするため、人的・物的支援の内容を随時検討し、効果的な支援を図ります。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	市民文化スポーツ局 安全・安心課
連絡先	582-2911

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	安全セミナーの開催
-----	-----------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市民ボランティア活動として繁華街での防犯パトロール等を全国的に展開しているNPO法人「日本ガーディアン・エンジェルズ」から講師を迎え、子どもの危機回避能力向上のため、市内の小中学生を対象に、「体験型」のセミナーを開催しています。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容 【手段】	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	年間実施回数 18回 小学校: 14回 中学校: 4回	年間実施回数 34回 小学校: 30回 中学校: 4回						
		これまでの進捗状況・今後の予定	実施回数 18回 小学校: 14回 中学校: 4回	年間実施回数 34回 小学校: 30回 中学校: 4回						
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		安全セミナーの年間実施回数				計画	18回	34回	年度	平成26年度
		一人でも多くの子どもにセミナーを体験してもらうことが重要であるため、年間の実施回数を指標として掲げました。				実績	18回		内容	年間実施回数 34回
						達成度	100%	%		
						計画			年度	
						実績			内容	
					達成度	%	%			
コスト									事業費	1,898 千円
	うち一般財源	1,898 千円	2,470 千円							

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	当初の実施計画の沿って順調に開催しており、毎回、全校児童が集まって多くの子どもたちがセミナーを受講しています。22年度は12月までに、小学校で5,390人、中学校で900人が受講したほか保護者の参加もありました。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	子どもたちのアンケートから「自分の身は自分で守るという意識が芽生えた」という声が多く寄せられ、大変好評を得ています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	業者選定手続きの専門性、競争性を確保するため、事業の実施委託契約についてはホームページで公示し応募者を募りました。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	子どもに対する凶悪事件は全国的に発生しており、市内においても不審者からの声かけやつきまとい事案等が発生している中、セミナーを通じて子どもたちが防犯意識を身に付けることは大変重要であると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		3	本事業は平成16年度から続いており、市内の小・中学校で計画的かつ効率的に実施できるのは行政であり、実施主体としては市が適切であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	今後も、子どもたちの危機回避能力を向上させるために、実施回数やセミナー内容を随時検討し、効率的な事業実施を図ります。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	年間実施回数を大幅に増やし、34回(小学校:30回、中学校:4回)のセミナーを実施する予定です。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	市民文化スポーツ局 安全・安心課
連絡先	582-2911

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	ガーディアン・エンジェルスセイフティ・センター運営支援事業
-----	-------------------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	繁華街での防犯パトロール等を全国的に展開しているNPO法人「日本ガーディアン・エンジェルス」が、青少年健全育成等の活動拠点としている小倉駅前の「セイフティ・センター」の運営を支援しています。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	・青少年健全育成への貢献 ・まちの環境浄化と安全なまちづくりへの貢献							
		これまでの進捗状況・今後の予定	・青少年健全育成への貢献 ・まちの環境浄化と安全なまちづくりへの貢献							
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		青少年からの悩み相談、自立支援、街頭パトロールの実施				計画	—	・青少年の健全育成 ・街頭パトロールの実施	年度	平成26年度
		市民ボランティア活動として繁華街での防犯パトロール等を全国的に展開している当該団体の特色を活かしたものとして、上記活動を指標に掲げました。				実績	・青少年の健全育成 ・街頭パトロールの実施		内容	・青少年の健全育成や街頭パトロールの実施
						達成度	%	%		
						計画			年度	
						実績			内容	
						達成度	%	%		
		コスト					事業費	1,800 千円	1,800 千円	
	うち一般財源						1,800 千円	1,800 千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	セイフティ・センターの相談員が青少年の悩み相談、若者の自立支援、JR小倉駅周辺の街頭パトロールを実施したほか、指定暴力団事務所が小倉南区の貴校区に設置した時期には、貴小学校の登下校時間の見守り活動も行い、地域の安全確保に貢献しました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	JR小倉駅周辺の治安維持、市民が安全に安心して暮らすための活動、若者との交流などを積極的に実施しており、市民からもセイフティ・センターの活動は高く評価されています。
	経済性・効率性		4	当該法人の事業の公共性が高さ、社会的貢献度や活動実績を勘案して、適正な補助金額を決定しています。
	適時性		4	セイフティ・センターの運営は、本市の補助金に支えられており、現在実施している支援を廃止した場合、センターが北九州市から撤退することも考えられます。
	市の関与の必要性		3	当該法人の活動内容は本市の防犯対策事業との関連性が強く、セイフティ・センターの運営には、市の支援と連携が不可欠です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ		今後セイフティ・センターは、青少年の健全育成とまちの環境浄化活動の継続を基本としながら、センターの存在を広く広報し、若者にモラルやマナーを教え、ライフスキルを考えさせる安全教育の場になることを目指しており、本市としても引き続き支援を継続していきます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	従来の活動の継続と、地元企業や商店街等との連携強化など、更なる展開を目指したセイフティ・センターの活動を、市としても支援していきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	市民文化スポーツ局 安全・安心課
連絡先	582-2911

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	北九州市地域安全・安心リーダー養成講座の開催
-----	------------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域の自主防犯組織である「生活安全パトロール隊」の代表や指導的な立場の人を対象に、地域防犯活動の更なるレベルアップと活性化を図るため、安全・安心に関する実践的な講座を開催して、地域における防犯リーダーを養成します。				
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり			

目的実現の為に実施する内容【手段】	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	養成講座の開催							
		これまでの進捗状況・今後の予定								
		参加人数：44人	養成講座の開催							
	実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		講座の参加人数	計画	50	人	50	人	年度	平成26年度	
		ワークショップや救命救助講習など参加型の講座を効果的に実施するため、50人程度の参加を指標として掲げました。	実績	44	人			内容	参加人数 50人	
			達成度	88	%	%				
		実施回数	計画	1	回	1	回	年度	平成26年度	
		地域防犯活動の更なるレベルアップと活性化を図るため、地域における防犯リーダーを養成講座を開催します。	実績	1	回			内容	1回	
達成度			100.0	%	%					
コスト						事業費	601	千円	750	千円
	うち一般財源					601	千円	750	千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成22年度は44名のパトロール隊員が参加し、平成17年度以降の延べ修了者数は327人となりました。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	修了者のアンケートは「役に立った」という声が大半を占めており、地域防犯活動に活かせる講座として大変好評をいただいています。
	経済性・効率性		4	実施会場は使用料のかからない市の施設を選定し、開催の事前準備・実施は職員で行うなど、低コストで質の高い講座を提供できるよう努めています。
	適時性		4	パトロール隊員が市内でこのような講座を受講できる機会はほかに無いため、講座を廃止した場合、数少ない他のパト隊との交流やレベルアップのための学習機会を失います。
	市の関与の必要性		3	「生活安全パトロール隊」に必要な知識や、地域が抱えている課題に対応した効果的な講座を開催できるのは、パトロール隊発足時から活動を支援している本市であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後も、地域防犯活動のレベルアップと活性化を図るために、講座内容や実施時期を随時検討し、安全・安心に関する実践的な講座を開催していきます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	23年度には開催7年目を迎え、延べ修了者数も相当数になっているため、パトロール隊員がより参加しやすいように実施回数等を見直しながら質の高い講座を開催する予定です。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	市民文化スポーツ局 安全・安心課
連絡先	582-2911

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	まちかど見守り運動推進事業
-----	---------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市の公用車に「防犯パトロール」と表示したマグネットシートやステッカーを貼付し、市職員が地域に出るときなどに、防犯の目をもって街かどを見守る「まちかど見守り活動」を実施しています。また、地域の自主防犯組織「生活安全パトロール隊」の隊員で、この活動に賛同する市民や企業にもマグネットシートを車両に貼付してもらっており、日常生活で無理のない地域の見守り活動をお願いしています。				
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり			

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	参加者 15,000人							
	これまでの進捗状況・今後の予定	参加者 10,200人	参加者 15,000人							
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		見守り活動への参加人数				計画	15,000 人	15,000 人	年度	平成26年度
		一人でも多くの人が防犯意識をもつことや、車両に貼付するマグネットシートが犯罪抑止力に繋がることから、活動への参加人数を指標として掲げました。				実績	10,200 人		内容	15,000人
						達成度	68 %	%		
						計画			年度	
				実績			内容			
				達成度	%	%				
コスト					事業費	93 千円	157 千円			
					うち一般財源	93 千円	157 千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	地域の「生活安全パトロール隊」隊員による申し込みで、平成22年12月現在、見守り活動の総参加人数は10,200人となり、公用車だけでなく市民による見守り車両も増えています。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	業務中や日常生活における地域の見守り、マグネットシートによる犯罪への抑止効果などが、地域で起こる犯罪発生への未然防止に役立っています。
	経済性・効率性		4	経費はマグネットシートやステッカーの物品作成費のみで、人件費等の他の費用がかからないため、低コストで事業を実施しています。
	適時性		3	本事業を廃止した場合、犯罪への抑止効果が低下する可能性があります。
	市の関与の必要性		3	地域を走行することの多い公用車を管理し、この見守り活動に賛同するパトロール隊員を多方面から支援しているのは市であり、事業主体は市が適切であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後も引き続き、市職員が公用車で地域に出るときは不審者などに注意しながら走行し、パトロール隊員の参加も募ることで、市民の安全を守る活動を継続していきます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	23年度も必要物品を確保し、日常生活や業務中に無理なく地域を見守ることで、犯罪発生への未然防止に役立てていきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	市民文化スポーツ局 安全・安心課
連絡先	582-2866

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	落書き消去活動支援事業
-----	-------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市民による迷惑行為防止活動の推進を図り、快適で美しく住みやすいまちづくりのため、地域住民、企業、商店街、学校、NPO等に対し、溶剤・用具等を提供して、自主的な落書き消去活動を支援します。				
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり			

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由			
		当初の予定	溶剤・用具等の提供による落書き消去活動の支援					→			
			10団体	10団体	10団体	10団体	10団体				
		これまでの進捗状況・今後の予定	溶剤・用具等の提供による落書き消去活動の支援					→			
	5団体		10団体	10団体	10団体	10団体					
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標		
		落書き消去活動の支援団体数					計画	10 団体	10 団体	年度	平成26年度
		落書きをなくして快適な生活環境を確保するためには、地域住民、企業、商店街、学校、NPO等による自主的な落書き消去活動が有効であるため、指標に取り上げました。					実績	5 団体		内容	10団体
							達成度	50 %	%		
							計画			年度	
実績									内容		
達成度		%	%								
コスト							事業費	140 千円	250 千円		
	うち一般財源						140 千円	250 千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	まだ団体数は少ないものの、市の中心的な商店街などにおいて熱心な活動が行われています。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	美しい都市環境を維持し、迷惑行為を行いにくい環境づくりとともに、活動参加者への意識付けに有効と考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	市が直接行うのではなく、自主的な落書き消去活動に溶剤・用具等を提供し、支援する事業としています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	落書きは、「モラル・マナーアップ関連条例」に定める迷惑行為の一つであり、市全体のモラル・マナー向上のため、他の迷惑行為と同様に防止のための事業を展開することが必要です。また、落書きの放置は、他の犯罪発生の発端になるとも言われており、継続的な取組みが重要です。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		4	迷惑行為の防止を推進するためには、迷惑行為が発生しにくい環境づくりが重要であり、快適で美しく住みやすいまちづくりのためには、市の関与が不可欠と考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	落書きのない環境づくりのため事業を継続実施するとともに、さらに落書き消去に取り組む団体が増加するよう、広報活動にも取り組みます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	事業の認知度が上がるよう、市の広報物などを利用して、積極的に広報活動を行います。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	市民文化スポーツ局 安全・安心課
連絡先	582-2911

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	「安全・安心まっぷ」の作成
-----	---------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域の街頭犯罪の発生状況や防犯対策を掲載した「安全・安心まっぷ」を区役所や市民センター等で広く市民に配布し、市民の防犯意識の醸成を図ります。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	50,000部配布							
		これまでの進捗状況・今後の予定	42,100部配布	50,000部発行						
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		発行部数				計画	50,000 部	50,000 部	年度	平成26年度
		一人でも多くの市民の目に留まることが防犯意識の高まりに繋がると考え、発行部数を指標として掲げました。				実績	42,100 部		内容	50000部発行
						達成度	84.2 %	%		
		配布部数				計画	50,000 部	50,000 部	年度	平成26年度
一人でも多くの市民の目に留まることが防犯意識の高まりに繋がると考え、配布部数を指標として掲げました。				実績	42,100 部		内容	50,000部配布		
				達成度	84.2 %	%				
コスト						事業費	634 千円	1,180 千円		
	うち一般財源					634 千円	1,180 千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	当初、マップを30,000部作成し、区役所や市民センターに配布しましたが、更に多くの市民に犯罪の発生状況や防犯対策を知ってもらうため、12,100部増刷して地域の「回覧版」で周知しました。また、マップは各区版で作成し、犯罪発生件数は校区ごとに2ヶ年分併記して前年と比較できるようにするなど、分かりやすい紙面づくりに努めました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	日頃、市民は地域の犯罪発生状況を統計的に知る機会が少ないこと、ひったくりや車上ねらいなど防犯対策を知っていれば防ぐことができる事例もあることから、防犯意識を高めるのに有効な情報紙として評価をいただいています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	H20年度まで、市政だよりとともに全戸配布していましたが、H21年度から全戸配布を見直し、市民センターや区役所等に配布するなど、効率的な事業実施に努めています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	配布しなくなることで、身近で起きている犯罪情報や防犯対策を認識する機会が減少し、市民の防犯意識の低下に繋がる恐れがあります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		3	区ごとに作成した防犯情報マップを配布する事業は警察にもなく、犯罪発生情報を効果的に市民に発信できるのは市であり、事業主体として適切であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後も、配布方法や発行部数を検討しながら、効果的な情報発信を図ります。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	H23年度も市民の防犯意識を高めてもらうため、市民センターや区役所を中心に配布し、犯罪の発生状況や防犯対策を周知します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	建設局道路維持課
連絡先	2274

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	明るく安全なまちづくり街灯整備事業
-----	-------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	「街をもっと明るく」という市民要望を受け、夜間の通行安全性の向上を目的に、道路照明灯と防犯灯の中間的な街路灯の整備を実施します。また、「北九州グリーンフロンティア」の取り組みの一環として、平成23年度からLED灯を本格導入します。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	市民の要望を受け実施							
		これまでの進捗状況・今後の予定	整備実施灯数 170灯	市民の要望を受け実施 「北九州グリーンフロンティア」の取り組みの一環として、平成23年度からLED灯を本格導入します。						
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		整備実施灯数	計画	200	灯	200	灯	年度	-	
		街路灯の設置は、市民からの要望がある場合で、要件に合致しているものについて実施しています。 よって、整備目標を設定する性質の事業ではありません。	実績	170	灯	-		内容	-	
			達成度	85	%		%			
		-	計画					年度	-	
		-	実績					内容	-	
		達成度		%		%				
コスト					事業費	11,000	千円	100,000	千円	
					うち一般財源		千円	21,000	千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	街路灯の設置は、市民からの要望がある場合で、要件に合致しているものについて実施しています。よって、整備目標を設定する性質の事業ではありません。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	要望に対して照明が整備されるため、地域の安全安心に一定の効果が期待できます。
	経済性・効率性		4	維持管理費が安いLED灯をH23年度から導入します。
	適時性		4	要望に対して照明が整備されるため、地域の安全安心に一定の効果が期待できます。
	市の関与の必要性		4	安全かつ円滑な道路の交通の確保は道路管理者(建設局・まちづくり整備課)の責務です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	街路灯の設置にあたっては、市民からの要望がある場合に、要件に合致しているものについて実施します。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	街路灯の設置にあたっては、市民からの要望がある場合に、要件に合致しているものについて実施します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	消防局・人事企画課
連絡先	582-3805

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	消防“夢”コンサート事業
-----	--------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市内の小学校(特別支援学校含む)に出向き、音楽教育の一環として実施しているコンサートです。消防音楽隊による生演奏やカラーガード隊の統制された演技を通じて、本物の音楽の素晴らしさや多くの仲間と音楽を創造するチームワークの重要性を伝える等「心の教育」を実践しています。また、火災をはじめとする災害の注意喚起を行い、幼少期からの「防火・防災思想」の高揚及び普及を図ります。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容【手段】	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	年間実施回数 50校程度	年間実施回数 50校程度	年間実施回数 50校程度	年間実施回数 50校程度	年間実施回数 50校程度	年間実施回数 50校程度		
		これまでの進捗状況・今後の予定	年間実施回数 60校	年間実施回数 50校程度	年間実施回数 50校程度	年間実施回数 50校程度	年間実施回数 50校程度	年間実施回数 50校程度		
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		年間実施回数(実施学校数)				計画	50 校	50 校	年度	平成26年度
		消防音楽隊の他の行事とのバランスから、年間50校程度の実施回数を「持することが」切す。 公演内容を毎年変更する、募集時期をより効果的な時期に変更する等の工夫により、依頼校の確保に努めます。				実績	60 校		内容	50校程度
						達成度	120 %	%		
						計画			年度	
						実績			内容	
						達成度	%	%		
コスト					事業費	千円	千円			
					うち一般財源	千円	千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成22年度より、新年度からの公演募集を行ったところ、前年度より公演回数が大幅に増加しました。平成22年度は、当初62校の応募がありましたが、インフルエンザ流行による学級閉鎖などで1校公演が中止となりました。もう1校について、緊急の体育館改修工事が行われたため公演中止となりました。以前の反省等を踏まえ、公演中止となった学校への振替公演について日程調整を行うも先方の都合がつかなかったため、やむを得ず中止としました。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性	この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本物の音楽に触れることで実践される「心の教育」に加え、防火・防災思想を学ぶことができる事業は他になく、上位施策実現のために十分な効果が得られていると考えます。実際、学校側からは大変好評を得ており、お礼の手紙等を多数頂いています。
	経済性・効率性	同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	これ以上コストを削減する余地はなく、より高い効果を得るために演出に工夫を行っています。また、新しい楽曲・流行曲の演奏を常に心がけ実施しているため、常に新鮮な事業・演出であるものと考えられます。
	適時性	今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	本事業は、平成14年度から本格実施しており、毎年楽しみにしている学校も多数あることから、休止・廃止する場合の影響は大いにあると考えます。
	市の関与の必要性	実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすることはできないのか。	4	消防音楽隊でなければ、本事業の内容・目的を達成することは不可能であり、市以外で行うことは困難です。音楽の素晴らしさを学んでもらうとともに、幼少期から「防火・防災思想」の高揚及び普及ができる機関は、消防音楽隊以外にないと思慮されます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	本事業は、施策の実現に対する有効性も高く、今後も目標達成に向けた努力をしていく必要があります。平成22年度から、学校の人事異動等を考慮し新年度募集を行ったところ、実施学校数が増加し高い効果が得られたため、平成23年度以降においても同様に継続して行います。また、今後においても、やむを得ず先方からの都合等による公演中止の申し出があった場合には、振替公演等の救済措置を図るよう努めていきます。平成23年度からは、対象を小学校(特別支援学校含む)に限定し、今まで以上に内容の充実強化を図ります。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	平成22年度から、学校の人事異動等を考慮し新年度募集を行ったところ、実施学校数が増加し高い効果が得られたため、平成23年度以降においても同様に継続して行います。また、今後においても、やむを得ず先方からの都合等による公演中止の申し出があった場合には、振替公演等の救済措置を図るよう努めていきます。平成23年度からは、対象を小学校(特別支援学校含む)に限定し、今まで以上に内容の充実強化を図ります。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	消防局・予防課
連絡先	582-3836

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	「消防士さんといっしょ」事業
-----	----------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	防火・防災のプロである消防職員が「ゲストティーチャー」として小学校に出向き、各小学校の協力を得て、社会科教育の一環である「消防のしごと」の授業を行うことにより、児童への防火・防災教育の充実を図ります。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	対象校の年間実施率 (100%)	対象校の年間実施率 (100%)	対象校の年間実施率 (100%)	対象校の年間実施率 (100%)	対象校の年間実施率 (100%)	対象校の年間実施率 (100%)		
		これまでの進捗状況・今後の予定	対象校の年間実施率 (100%)	対象校の年間実施率 アンケートの回答結果 (100%)	対象校の年間実施率 アンケートの回答結果 (100%)	対象校の年間実施率 アンケートの回答結果 (100%)	対象校の年間実施率 アンケートの回答結果 (100%)	対象校の年間実施率 アンケートの回答結果 (100%)		
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		「消防士さんといっしょ」対象校の年間実施率				計画	100 %	100 %	年度	平成26年度
		市内すべての小学校(ただし、特別支援学校及び複式学級等を除く)を対象とした年間実施率です。将来を担う子どもたちに「防火・防災」について認識をもたせることは、北九州市を「災害に強いまち」とするための基盤として重要なことであるため、実施率100%と設定しました。				実績	100 %		内容	100%
						達成度	100.0 %	%		
		アンケートの回答結果				計画	100 %	100 %	年度	平成26年度
		実施学校のアンケート調査を実施した結果、児童の反応についての問いに「非常によかった」「良かった」と回答の集計結果及び「今後もこの授業は継続したいか」との問いに、「希望したい」と回答した集計結果を100%と設定しました。				実績	100 %		内容	100%
	達成度					100.0 %	%			
コスト					事業費	1,710 千円	1,572 千円			
					うち一般財源	— 千円	— 千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	対象校132校のうち、すべての学校で実施しました。
------	-------------------------------------	---------------------------

【事業の再検証】

評価	有効性	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	平成22年度、各小学校の担当者(先生)を対象とした授業アンケートの中で、「受講した児童の反応について」の問いに、回答を頂いたすべての小学校が、「非常に良かった」又は「よかった」と回答しており、有効性については高いものでした。
	経済性・効率性		4	本事業での使用資器材(スモークマシーン等)については、各署2台という少ない数で計画的に使用しており、経済的・効率的に実施できました。
	適時性		4	平成22年度、各小学校の担当者(先生)を対象とした授業アンケートの中で、「今後もこの授業は継続したいか」との問いに、回答を頂いたすべての小学校から「希望したい」との回答を得ました。
	市の関与の必要性		4	本事業のポイントは、消防職員(講師)自身が体験にもとづく授業内容で構成している点であるため、他の実施主体は考えられません。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ		本事業は、子どもたちが「防火・防災」について認識を持ち、家庭・地域生活の中で実践していく力を育むことは、将来の北九州市を「災害に強いまち」にするためにも重要なことであると考えます。よって、今後も積極的な取組みを進めていくことが適当です。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	これまでの関係組織間の緊急事態への体制と連携の様子や、火事・災害の防止に努める地域活動の様子を取り上げることにより、児童自らが災害について自主的に理解を深めることができる授業内容の実現に取り組んでいく。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	消防局/警防課
連絡先	582-3817

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	児童見守り消防隊
-----	----------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	児童生徒が登下校時に犯罪に巻き込まれないよう、教育委員会等各関係機関と連携し、地域における安全確保を図ります。具体的には、児童の登下校時に声掛けを実施したり、業務出向時に通学路のパトロールを実施します。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	3,000件	3,000件	3,000件	3,000件	3,000件			
			市内全小学校区での「児童見守りパトロール」の実施 児童虐待に関する子ども総合センターへの通報							
		これまでの進捗状況・今後の予定	2,426件							
	市内全小学校区での「児童見守りパトロール」の実施 児童虐待に関する子ども総合センターへの通報									
	実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		市内全小学校区での「児童見守りパトロール」の実施件数				計画	3,000 件	3,000 件	年度	平成26年度
		児童が登下校時に犯罪に巻き込まれないよう、関係機関と連携し、安全確保を行っています。また、子ども総合センターへの通報については、救急事案の対応時に注視しています。 目標値については、年間登校日数約200日×登下校2回×7区に各区の実情を加味した数値としています。				実績	2,426 件		内容	3,000件
						達成度	80.9 %	%		
						計画			年度	
				実績			内容			
				達成度	%	%				
コスト					事業費	千円	千円			
					うち一般財源	千円	千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成22年度から事業の効率化を図り、声かけ等を効果的に実施するために、登下校時を重点的にパトロールしたため、昨年度と比較して目標数値を減少しました。また、他の事業との関係から減少した目標値についても達成できませんでしたが、当該事業は結果がすぐに現れるものではないため、実績のみで進捗状況は計れないところがあります。 本事業により、地域住民との間に信頼関係が築かれつつあることから、今後も新たな目標値達成に向け、事業を進めていきたいと考えます。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	消防隊の業務出向時等の通常勤務の合間で実施する事業であるため、追加コストを必要としませんが、当該事業のみを積極的に実施するわけではないため、最大限の成果が挙げられているとは言いがたいところがあります。
	経済性・効率性		4	消防隊の業務出向時等の通常勤務の合間で実施する事業であるため、追加コストを必要とせず効率的です。
	適時性		4	近年、市民の安全安心に関する意識は高く、その中でも児童の安全は最重要課題であるため、継続して実施することが望ましいです。
	市の関与の必要性		4	市民の安心安全を守るということは行政の基本であり、市と地域との信頼関係を築く上でも市の積極的な関与が必要です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	これまで実施してきた事業により、地域住民との信頼関係が築かれつつあり、更なる成果を挙げるために継続して実施することが望ましいです。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	消防車両によるパトロールを行うことで、犯罪の抑止が期待できるため、今後も同様の内容について継続して実施します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	消防局・救急課
連絡先	582-3820

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	パパママ救急救室
-----	----------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	少子化・核家族化が進む中、子どもの病気やケガへの対応などに不安を抱える子育て中の親は多いと考えられることから、子育てへの不安を少しでも軽くし、また、かけがえのない小さな命を守るため、新米パパママを対象に、子どもに関する応急手当教室を開催します。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由			
		当初の予定	受講者 240人 実施回数 24回						2箇所のうち1箇所の開催施設から、毎月開催していたものを2ヶ月に1回の開催にしてほしいとの要望を受けたため、計画を変更するもの。		
		継続実施		継続実施	継続実施	継続実施	継続実施				
	これまでの進捗状況・今後の予定	受講者 265人 実施回数 17回	受講者 180人 実施回数 18回								
	継続実施			継続実施	継続実施	継続実施	継続実施				
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標		
		受講者数			計画	240	人	180	人	年度	平成26年度
		新米パパママを対象としており、受講者数を指標とします。			実績	265	人			内容	180人
					達成度	110.4	%		%		
		実施回数			計画	24	回	18	回	年度	平成26年度
新米パパママを対象として、教室を定期的に開催します。				実績	17	回			内容	18回	
			達成度	70.8	%		%				
コスト					事業費	千円		5千円			
					うち一般財源	千円		5千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	開催施設からの要望で、開催回数は少なくなったものの、受講者は目標数に達しています。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	新米パパママにとっての得たい知識・技術を得る機会を提供できています。
	経済性・効率性		4	短期間かつ少人数での実施ができ、低いコストで実施できています。
	適時性		4	子どもに関する応急手当を学べる場は他になく、子どもの病気やケガへの対応などに不安を抱える親は多いことから、その不安を解消し、かけがえのない小さな命を守るための技術習得の場が必要とされています。
	市の関与の必要性		4	応急手当普及啓発活動は市が行うこととされており、その一環での開催としています。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	継続実施します。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	継続実施します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	----------	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	消防局・危機管理課
連絡先	582-2110

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	J-DIG(中学生を対象とした災害図上訓練)
-----	------------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域に居住する中学生に対してDIG(J-DIG)を実施し、若年層の防災教育の充実強化を推進するとともに、将来の防災リーダーの育成を図ります。 DIGとは・・・地域で大きな災害が発生した場合を想定し、地図への書き込みを通して、参加者自身が地域の防災上の長所・短所を理解し、災害活動及び事前対策へのイメージを膨らますことが出来る住民参加型の災害図上訓練。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	J-DIG実施校10校	J-DIG実施校10校	J-DIG実施校10校	J-DIG実施校10校	J-DIG実施校10校			
		これまでの進捗状況・今後の予定	J-DIG実施校7件	J-DIG実施校10校	J-DIG実施校10校	J-DIG実施校10校	J-DIG実施校10校			
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		将来の地域防災リーダーの育成				計画	10校	10校	年度	平成26年度
		J-DIGを通じて防災知識の普及、意識の向上を図り、将来の防災リーダー育成を図ります。				実績	7校		内容	10校
						達成度	70%	%		
						計画			年度	
						実績			内容	
					達成度	%	%			
コスト									事業費	千円
	うち一般財源	千円	千円							

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	22年度は、全中学校に対して実施希望調査を行い、実施希望のあった7校においてDIGを実施しました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	まちの危険箇所を知ることができる等、災害から身を守り、生き抜く力を育成する若年層の防災教育という観点から有効性は高いと考えます。
	経済性・効率性		4	J-DIGは実施する学校周辺の地図と筆記用具があれば行えること、さらに、地域に精通し且つ防災のプロである消防職員を講師として派遣していることから、経済性・効率性共に高いと考えます。
	適時性		3	短時間で成果が現れる性質の事業ではないが、将来の地域防災リーダー等の育成という長期的な視野で考えた場合、本事業の適時性は高いと考えます。
	市の関与の必要性		3	J-DIG実施の際には、地域に精通し且つ防災のプロである消防職員が講師として適していることから、市が関与する必要性は高いと考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	本事業は学校教育の中で次世代の防災リーダーを育成することにより、「安全で安心できるまちづくり」を目指す重要な事業です。今後も目標の達成に向け着実な取り組みを進めていくことが重要と考えます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	中学校校長会での事業紹介等、様々な機会を活用して、実施校数の増加を目指します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------